

編集後記

■編集委員 (50 音順)

伊 熊 健 一 郎	岩 崎 昭 憲	小 澤 壯 治	北 島 政 樹
北 野 正 剛	清 水 一 雄	徳 村 弘 実	東 原 英 二

先天性腔欠損症と腹腔鏡下手術との出会いを振り返りながら、内視鏡手術の展望について考えたいと思います。読者の先生方は Rokitansky-Küster-Häuser 症候群という疾患をご存知ですか。女性の約 5,000 人に 1 人の割合で出現する先天性腔欠損症です。染色体異常はなく、卵管や卵巣は正常に発育し、排卵もあり思春期の成熟は普通です。子宮形成に必要な Müller 管の発生分化の障害で、子宮は痕跡状で子宮機能は欠如します。また、腔形成に必要な尿生殖洞の発生分化も欠如するため、腔の入口部は盲端になっており、正常な腔管形成は起きておりません。この疾患に初めて遭遇したのは産婦人科医師になって 11 年が経過した 1986 年の時でした。初潮はなく愛するパートナーとの性交もできないことを両親に打ち明け、悶々とした苦悩の毎日を送っているとして紹介されました。本人は絶望的な表情でした。対処法を探しました。あきらめてもらうか、手術をするか。

手術には実に色々な方法がありました。結果的には、外科医師との連携の下に、翌 1987 年に S 状結腸を利用する人工造腔術を選択しました。1989 年の 2 例目もうまくできました。しかし、当時はあたり前であった恥骨から臍に至る切開腹創は大きな課題でした。この直後に全く新しい概念の内視鏡手術が登場してきたのです。1993 年の 3 例目に対しては、開腹で行われていた手術手技の比較的簡便な骨盤腹膜を利用する方法を、腹腔鏡下に再現しました。1995 年にはすべての工程を腹腔鏡下に行う S 状結腸利用法も世界に先んじて行い、腹腔鏡下手術のさらなる展開の可能性を確信しました。課題であった腹壁創に関しては解消できました。しかし、先の骨盤腹膜利用の症例で腔壁の肉芽組織増殖による出血と帯下のため性交は不能になりました。また、狭窄して腔機能を果たさない症例も紹介されました。これらの難題に対しても腹腔鏡下での S 状結腸利用法で対処できたのです。腔としてのできばえと術跡も小さな腹壁創であったことから、女性としての自信を取り戻し、幸せな結婚生活をもつカップルもあります。悲喜こもごもの 36 症例にかかわっています。女性の再生を果たすための腹腔鏡下手術の役割は極めて大きいものです。これらの経緯や実際の手術方法に関しては、本誌第 12 巻 3 号に掲載を予定しています。

しかし、これで問題が解決したわけではありません。たとえ性交渉は可能となっても子供を宿すことはできません。体外受精と借り腹によるパートナーとの実際の生児を得ることは既に可能ですが、国内では許可されていません。これらの内容を全て解決する方法があります。造設した腔管への子宮移植です。わが国でもイヌやヒトで試みられております。幾多の難題はあると思いますが、実現すればすばらしいことであります。もちろん、究極的には腹腔鏡下にそれらの手術が行われる時が来ることを夢見ながら 2007 年初めの言葉とします。

(伊熊健一郎)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第 12 巻 第 1 号) 2007 年 2 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 2,835 円 (本体 2,700 円 + 税 5%) となります。

2007 年 年ぎめ予約購読料: 16,500 円 (税込) (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当: 佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2007, Printed in Japan

発 売: (株)医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 藤田, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

エディトリアル	小澤壯治 藤田保健衛生大学・坂文種報徳會病院外科
1. 腹部救急疾患に対する腹腔鏡下手術の現状	加納宣康 亀田メディカルセンター外科
2. 胃・十二指腸穿孔に対する腹腔鏡下手術	長島 敦 済生会神奈川県病院外科
3. 急性虫垂炎に対する腹腔鏡下手術	菅 和男 西諫早病院外科
4. 急性胆道炎に対する腹腔鏡下手術	鈴木克彦 本荘第一病院外科
5. イレウスに対する腹腔鏡下手術	池田英二 岡山赤十字病院外科
6. 潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下手術	井上 透 大阪市立大学腫瘍外科
7. 腹部外傷に対する腹腔鏡下手術	大森浩明 岩手医科大学第 1 外科